

No. 1422

文化財を守る

— 東京・芝 —

毎年1月26日は「文化財防火デー」になっています。この日、東京港区芝の増上寺を佐野文化庁長官、石見消防庁長官が、視察、金田執事長の説明に熱心に耳をかたむけていました。午前10時からは「重要文化財の三解脱門が通行人の投げ捨てたたばこで出火」との想定で消防訓練が行われました。出火と同時に黒の法衣姿の僧りょ約30人がかけつけ、初期消火、文化財の持ち出しなど手際のよい訓練を行いました。つづいて自衛消防隊による放水。3年前、放火によるボヤが起きているだけにみんな真険そのもの。かけつけた消防隊の一齐放水が行われると三解脱門は水のカーテンでおおわれました。国民の財産でもある貴重な文化財を火災から守るため日頃から十分注意したいものです。

自然にとけこむ心象

— 第13回・日展 —

愛知県・名古屋市の愛知県美術館では、今、第13回・日展が開かれています。日展は、明治40年、先ず日本画・西洋画・彫刻の三部門で創設された文帝を母体とし、その後、工芸美術・書道を加え、全部で五つの部門、今年で73年の歴史を誇る美術展として一般に親しまれてきました。観客を圧倒する東山魁夷の「静唱」、昨年文化勲章を受けた山口華楊の「原生」。今回は全国から選ばれた代表作品321点に東海三県下からの出品作品219点を加えた合計540点を展示。その写実的で基本的技法を重んじた堅実、温和な作風は、多くの人々に親しまれています。

マラドーナ決勝点

— スーパーサッカー —

アルゼンチンが生んだ20億円男と呼ばれる超スーパースター・マラドーナ。アルゼンチンのボカ・ジュニアーズ対日本代表の第3戦は1月24日、東京代々木の国立競技場で約4万の観衆を集めて行われました。白いペレと呼ばれ、サッカーの天才と言われるマラドーナは今年21才。試合開始からみごとなボールコントロールを披露、つめかけた観衆から思わずため息がもれます。しかし、この日はどうしたことか調子がいまひとつ。再三のパスミスに自ら戦列を離れたマラドーナは足になじまない新しいシューズの交換を要求。これで調子をとりのどしたのか前半39分ガレカからのリターンパスを受けたマラドーナは左足で強烈な30メートルシュート。黄金シュートは一瞬のできごとだった。後半に入ってますますマラドーナの技がさえます。ボールタッチのやわらかさ、広角パス、そして勝負と見た時は果敢に前につっ込んでいくマラドーナ。マラドーナにほんろうされ放しの日本代表もよく健闘し、再三の得点機をつかむが、ボカの堅いディフェンスに阻れ無得点。結局試合はマラドーナの決勝点でボカ・ジュニアーズが勝ち、対戦成績を2勝1分としました。マラドーナは日本での3試合で3本の黄金シュートを決めた。この超スーパースターの見せてくれたすばらしいプレーにスタンドのファンも満足したに違いない。